若者まちづくり会議 わかまちカフェ（H26-第2回）を開催しました

平成27年1月18日（日）えきまえ図書館本の杜にて

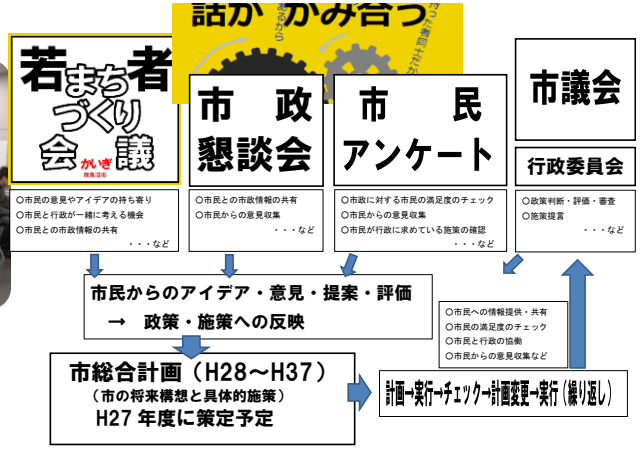
若い人たちの意見・提案を市政に反映させる機会を増やすために昨年から始まった「若者まちづくり会議」。

今年度は愛称を「わかまちカフェ」にして、少しだけ違った切り口で話し合って行きます。

第2回目では、第1回（11月15日）で挙げられた「将来目指したい南魚沼市のすがた」について、それを実現するための具現的なアイデアを出し合いました。

◆わかまちカフェの取組みと、関連する市の施策

事務局から、わかまちカフェの取り組みとその役割などについて説明がありました。



◆前回までのふりかえり

ファシリテーターの（一社）まちネット育ちの種　川島崇照さんから前回までのふりかえりをしていただきました。

昨年は、人口が確実に減少する将来の南魚沼のために～今私たちができること～をベースに「どんな南魚沼市になるといいかな」について話し合いました。

「こうなってほしい将来の南魚沼市」の理念として

「資・働・育・愛で、地域も人もつながる
安心して住み続けられるまちにしたい！」

としてまとめ、資・働・育の3つのテーマについて、

「こういう方法をとれば、それに近づける」と思うアイデアを出し合い、テーマごとに出されたアイデアを基に「方針と方策」を考えました。

今年度の第1回めでは、
[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい
[働]若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい
[育]子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい

という目指すまちのすがたについて、現状・課題と、具体的な将来像について意見を出し合いました。

□ ワークショップの開始です

今日は、「将来目指したい南魚沼市のすがた」について、それを実現するための具現的なアイデアを出し合います。

◆ シール投票をやってみました

前回出た「将来目指したい南魚沼市のすがた」の中で、共感できるものについて参加者がシールを貼っていく投票を行いました。各テーマのうち、投票上位のものについて、当日は重点的に実現のためのアイデアを出していくことにしました。

◆ 4テーブルに分かれてワーク

参加者が30分ごとに3つのテーブルを回り、意見を出し合いました

「[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい」のテーブル1

「[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい」のテーブル2

「[育]子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい」のテーブル

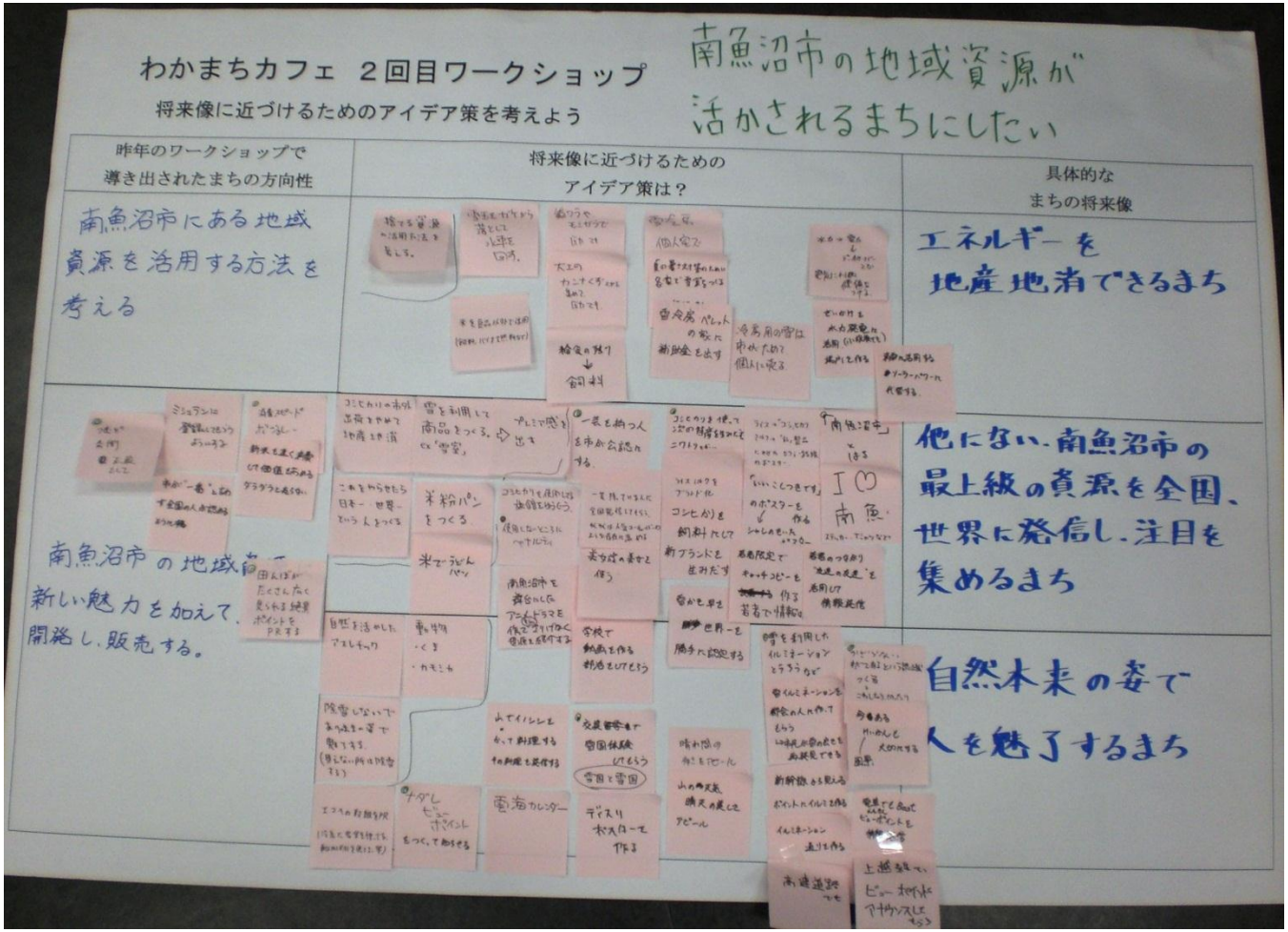
「[働]若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい」のテーブル

◆ 最後に、各テーブルの発表です

・各テーブルがワークのまとめを発表します。

資 1-1　南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたいのテーブル

【シール投票結果】

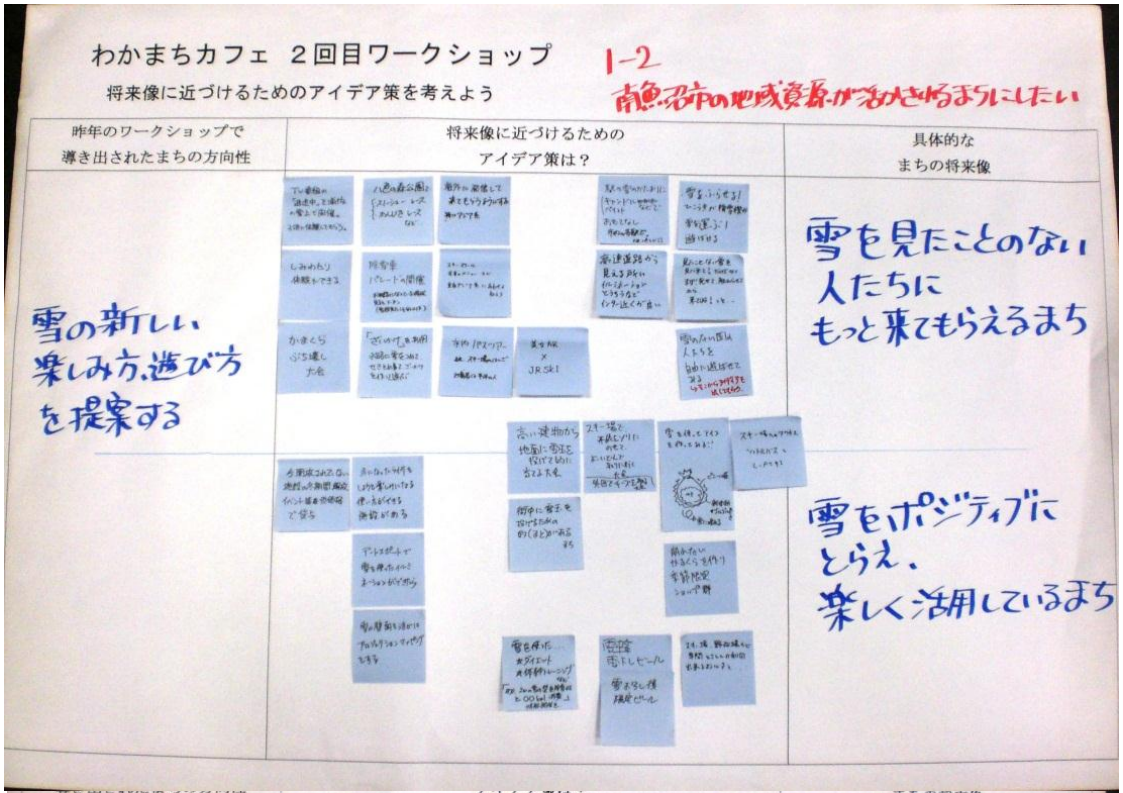


資 1-2　南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたいのテーブル

【シール投票結果】

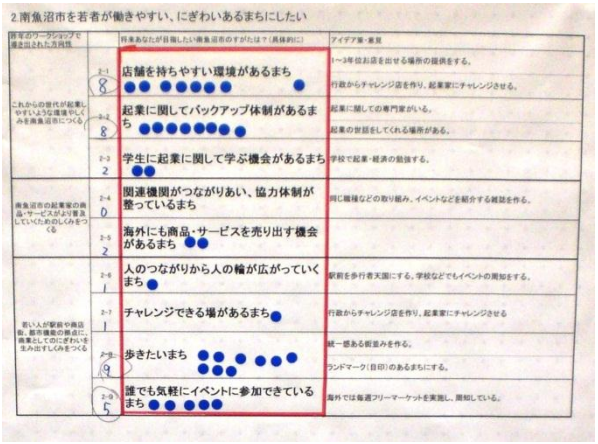
1-2.南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい

昨年のワークショップで導き出された方向性		将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？（具体的に）	アイデア策・案見
雪の新しい楽しみ方、遊び方を提案する	1-20	雪を見たことのない人たちにもっと来てもらえるまち	スノーショーができる しみわたり体験ができる（タイミングが合わないと難しいが） スケート等氷上のスポーツをする 雪とラジコン大会をする 大雪合戦をする TV番組の「過去中」を通信の雪上で開催。子どもたちに体験してもらう。雪の迷路をつくったり、→TVの影響やSNSなどで、楽しさを画像や動画でアピール かまくらの常設（雪積もる人がいれば可） かまくらぶち壊し大会 スキー場や旅館にもかまくらを設置
	1-21	雪がきっかけで地域の人の交流が活発なまち	冬限定の観光スポットとして、期間限定で雪像を作る かまくらを使ってグルメツアー 雪像フェスティバル。雪まつりの雪像づくりを、家の前や観光スポットなど、身近なところに作る市民主体の雪像コンテスト。
	1-22	雪の「他にない」楽しみ方を提供しているまち	雪おろしの競技化（丸太切り競争や消防の競技のように） 北越雪国の雪の結晶を探そう！ 写真に撮って、写真展やコンテストを開催（雪まつりとは別のイベントで）雪の結晶を探そう。色々な形がある。 雪関係の検定一様々な特典をつける
	1-23	雪をポジティブにとらえ、楽しく活用しているまち	工夫次第で良いイメージに 今開放されていない施設の冬期間の開放、イベントなどに低価格で借りれる 冬になったら何をしようと楽しみになる使い方ができる施設がある 雪遊びはたのしい！ストレス発散！というイメージをPRできる市に。他災に住んでストレスになっている雪をストレス発散のツールに デートスポットで雪を使ったイルミネーションができたら。 雪の壁面を活かしてプロジェクションマッピングをする 雪の長いすべり台、トンネルがある 常設かまくら。だだっぴろいところに雪の遊具やかまくらをつくれば、それだけで東京の人は来たい。
	1-24	雪を資源として活用しているまち	雪の冷蔵施設がある 雪を活用した資源（発電など）がある
	1-25	雪遊びの楽しさ、雪国の暮らしを発信し、観光客で賑わっているまち	白銀の雪色をアピールして、雪を逆手にとり、雪の無いところの人たちを観光に呼び込む 雪国の暮らしを都会や姉妹都市に紹介する。教える機会をつくる（小学生とか） 一七日町が外国人のまちになっている。 外国の人が来たから、何か共通するものがここにあるのでは？
	1-26	各スキー場が独自性（オリジナル性）を持ち、スキー客で賑わっているまち	オリンピック選手にPRしてもらう スキー場で自由に遊べる環境づくりが必要 筑波大学の人たちは、スキー場でスキーを始めると、やがてスキーを使わずに自由に遊び始める 東南アジアの人は雪を見るためだけにやってくる。 スキー・スノーボード検定を毎日開催して「他にはない」をPRする一気に来る。
南魚沼市の地域資源、地域文化を若い世代に根付かせる	1-27	地域を愛せる教育をして、地域に誇りをもてる人を育むまち	子供も親も学ぶ 子供に根付かせる。知ってもらう 学校教育の一つとして取り入れる 雪室を活用する。雪下へ野菜、漬物などたくさんためす ウェアラブルカメラの貸出し、レンタルする 魚沼の文化、発表大会がある
	1-28	統一感あるまちなみを見に、観光客で賑わっているまち	晴之通り以外にも観光に訪れる場所がある
	1-29	お年寄りと自然と交流し、多世代交流のあるまち	昔ながらの言葉を教育に取り入れる。よそのおばあちゃんから教えてもらった。



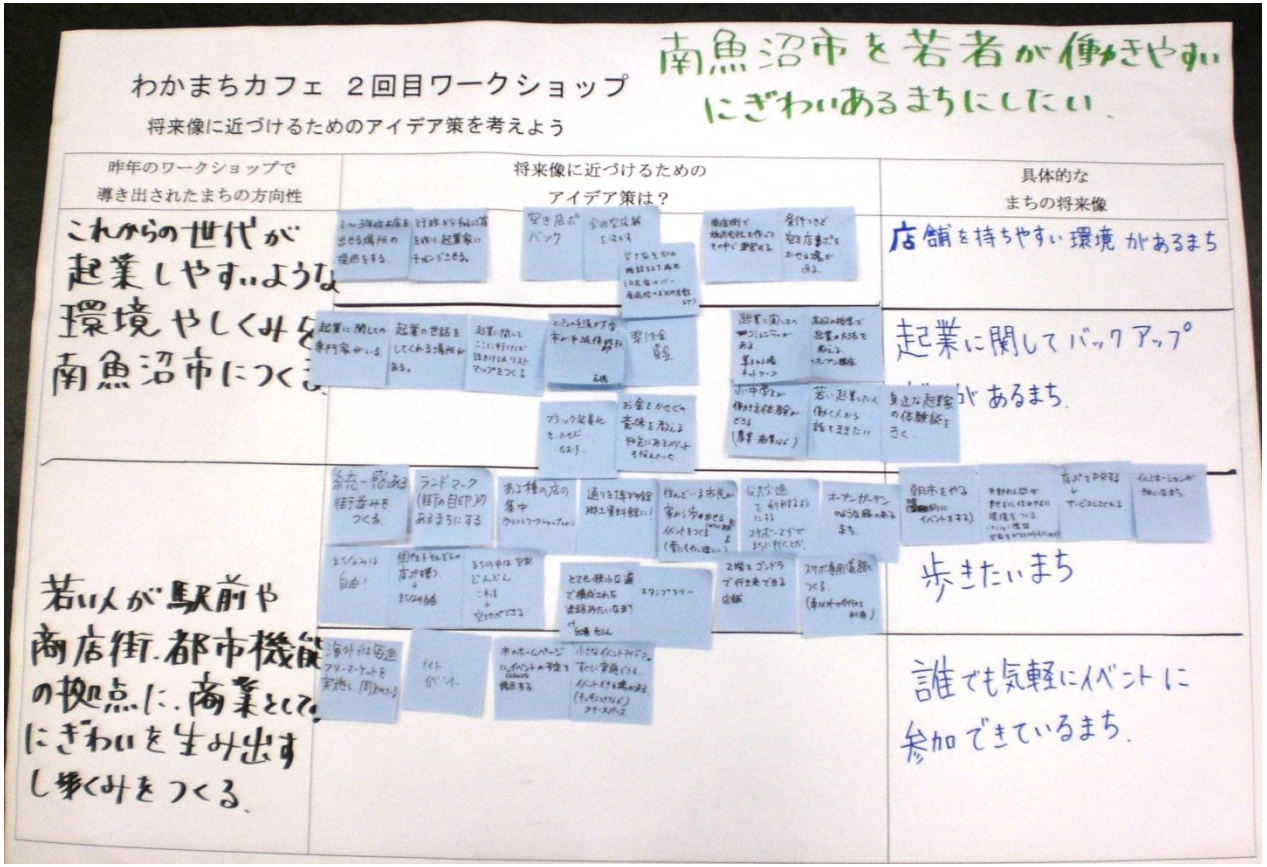
働 2　南魚沼市を若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい　のテーブル

【シール投票結果】



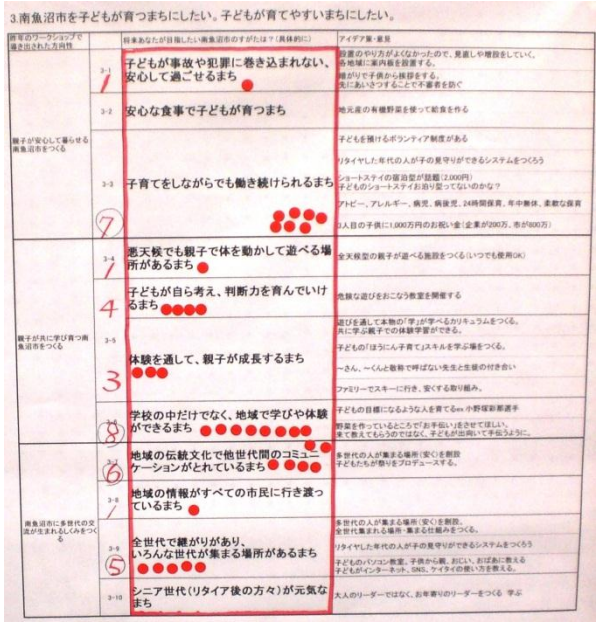
2.南魚沼市を若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい

昨年のワークショップで導き出された方向性		将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？（具体的に）	アイデア策・意見
これからの世代が起業しやすいような環境やしくみを南魚沼市につくる	2-1 8	店舗を持ちやすい環境があるまち ●●●●●●●	1～3年位お店を出せる場所の提供をする。
			行政からチャレンジ店を作り、起業家にチャレンジさせる。
	2-2 8	起業に関してバックアップ体制があるまち ●●●●●●●●	起業に関しての専門家がいる。
			起業の世話をしてくれる場所がある。
	2-3 2	学生に起業に関して学ぶ機会があるまち ●●	学校で起業・経済の勉強する。
南魚沼市の起業家の商品・サービスがより普及していくためのしくみをつくる	2-4 0	関連機関がつながりあい、協力体制が整っているまち	同じ職種などの取り組み、イベントなどを紹介する雑誌を作る。
	2-5 2	海外にも商品・サービスを売り出す機会があるまち ●●	
若い人が駅前や商店街、都市機能の拠点に、商業としてのにぎわいを生み出すしくみをつくる	2-6 1	人のつながりから人の輪が広がっていくまち ●	駅前を歩行者天国にする。学校などでもイベントの周知をする。
	2-7 1	チャレンジできる場があるまち ●	行政からチャレンジ店を作り、起業家にチャレンジさせる
	2-8 9	歩きたいまち ●●●●●●●●●	統一感ある街並みを作る。
			ランドマーク（目印）のあるまちにする。
	2-9 5	誰でも気軽にイベントに参加できているまち ●●●●●	海外では毎週フリーマーケットを実施し、周知している。



育 3　南魚沼市を子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい。　のテーブル

【シール投票結果】



3.南魚沼市を子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい。

昨年のワークショップで導き出された方向性		将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？（具体的に）	アイデア策・意見
親子が安心して暮らせる南魚沼市をつくる	3-1	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない、安心して過ごせるまち ●	設置のやり方がよくなかったので、見直しや増設をしていく。 各地域に案内板を設置する。 繋がりで子供から挨拶をする。 先にあいさつすることで不審者を防ぐ
	3-2	安心な食事で子どもが育つまち	地元産の有機野菜を使って給食を作る
	3-3	子育てをしながらでも働き続けられるまち ●●●●●●● 7	子どもを預けるボランティア制度がある リタイヤした年代の人が子の見守りができるシステムをつくろう ショートステイの宿泊型が設置(2,000円) 子どものショートステイお泊り型ってないのかな？ アトピー、アレルギー、病児、病後児、24時間保育、年中無休、柔軟な保育 0人目の子供に1,000万円のお祝い金(企業が200万、市が800万)
親子が共に学び育つ南魚沼市をつくる	3-4	悪天候でも親子で体を動かして遊べる場所があるまち ●	全天候型の親子が遊べる施設をつくる(いつでも使用OK)
	3-5	子どもが自ら考え、判断力を育んでいけるまち ●●●● 4	危険な遊びをおこなう教室を開催する
		体験を通して、親子が成長するまち ●●● 3	遊びを通して本物の「学」が学べるカリキュラムをつくる。 共に学ぶ親子での体験学習ができる。 子どもの「ほうにん子育て」スキルを学ぶ場をつくる。 ～さん、～くんと敬称で呼ばない先生と生徒の付き合い ファミリーでスキーに行き、安くする取り組み。
	3-6	学校の中だけでなく、地域で学びや体験ができるまち ●●●●●●● 3	子どもの目標になるような人を育てる。小野塚彩那選手 野菜を作っているところでお手伝いをさせてほしい。 来て教えてもらうのではなく、子どもが出向いて手伝うように。
南魚沼市に多世代の交流が生まれるしくみをつくる	3-7	地域の伝統文化で他世代間のコミュニケーションがとれているまち ●●●●● 6	多世代の人が集まる場所(安心)を創設 子どもたちが祭りをプロデュースする。
	3-8	地域の情報がすべての市民に行き渡っているまち ●	
	3-9	全世代で継がりがあり、いろんな世代が集まる場所があるまち ●●●●● 5	多世代の人が集まる場所(安心)を創設。 全世代集まれる場所・集まる仕組みをつくる。 リタイヤした年代の人が子の見守りができるシステムをつくろう 子どものパソコン教室、子供から親、おじいい、おばあに教える 子どもがインターネット、SNS、ケイタイの使い方を教える。
	3-10	シニア世代（リタイア後の方々）が元気なまち	大人のリーダーではなく、お年寄りのリーダーをつくる　学ぶ